

2020年3月27日

株式運用におけるESG投資の高度化

～国内株式ESG運用への気候変動要素組込・外国株式全体の運用プロセスへのESG組込～

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「当社」)は、日本全国の約1,000万名の保険契約者からお預かりした約36兆円の資金を幅広い資産で運用する「ユニバーサル・オーナー」として、ESG投資を積極的に推進しています。今般、ESG投資の更なる高度化に向けた取組みの一環として、①国内株式ESGファンドのインハウス運用に気候変動要素を組込むとともに、②外国株式運用全体の投資プロセスにESG要素を組込むことを決定しましたのでお知らせします。

【株式運用におけるESG投資の主な取組】



① 国内株式ESGファンドのインハウス運用(外部に委託しない自家運用)に気候変動要素を組込

- ・ GPIFも採用する環境株式指数である「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」¹を使用し、炭素効率性(売上高当たりの炭素排出量)が高い銘柄を、当社の投資対象候補の銘柄群に追加
- ・ 当社リサーチ(※)に基づき、気候変動要素がネガティブな財務インパクトを与えると判断される銘柄を除外した上で、投資対象ユニバースを選定

※2019年度、気候変動リスク・機会の観点での分析に基づいた社内投融資ランクの調整を開始

② 外国株式運用全体の投資プロセスにESG要素を組込

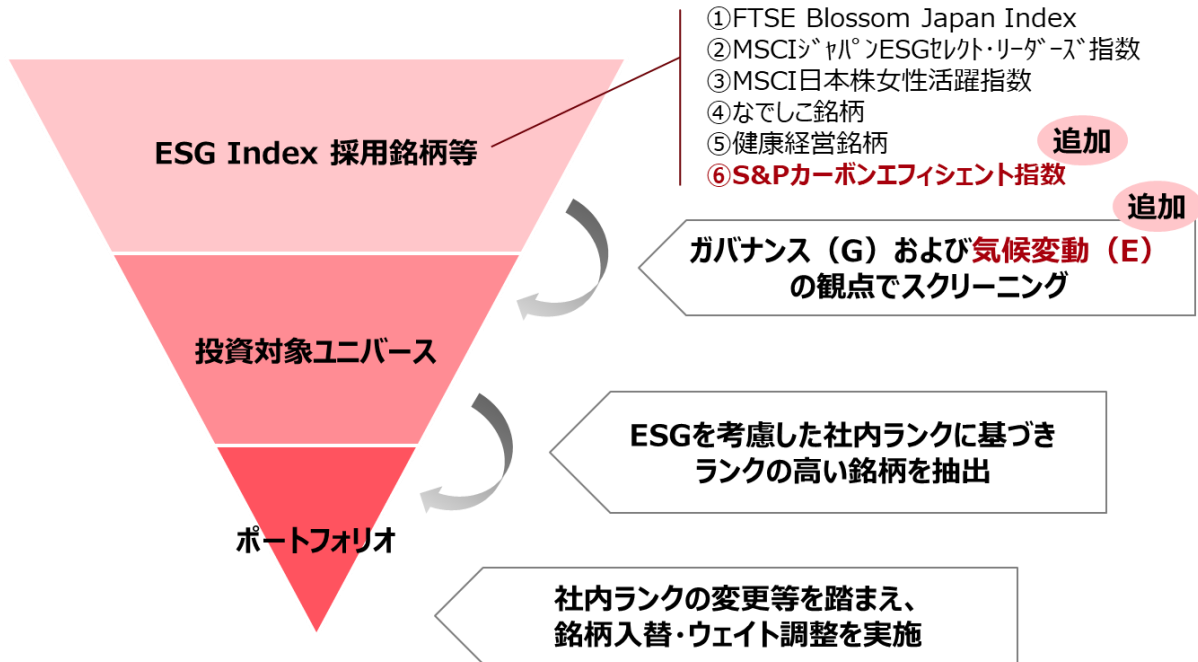
- ・ 2019年度、外国株式運用の一部資金において、アラベスク・エス・レイが算出するESGスコア(※)を使用してポートフォリオを構築する外国株式ESGファンドのインハウス運用を開始し、手法の効果検証を実施
- ・ 2020年度からは同ファンドのスクリーニング手法を外国株式運用全体の投資プロセスに導入

※世界の主要上場企業7000社超のESG関連データを日次で収集し、AIを用いてESGスコアを算出

今後も引き続き、運用手法の高度化・多様化によって資産運用収益の向上を図るとともに、責任ある機関投資家として持続可能な社会の形成に寄与すべく、ESG投資に積極的に取り組んでいきます。

¹ 炭素効率性が高い企業や温室効果ガス排出に関する情報開示を行う企業の投資比率を高めた指数

【参考：国内株式 ESG ファンド構築手法】



【参考：外国株式 ESG ファンド構築手法】

